

コミュニティ

No.	要 点
1	<p>就学前の幼児を持つ親同士に知り合ってもらおうという活動を、指導員を中心に行っている。</p> <p>自治会加入率は44%くらいだが減る一方だ。昨年若人達の考え方を入れ、地域の仲間を作ってお互いに話をするという発想で、若いPTAや保護者の代表者を入れて話した。子供達まで含めた裾野の広い地域づくりがこれからは大切になってくる。今までは市のOBとか年配の人が中心になっていたが、若い人でコミュニティの中心になってもらえるような人を募集したところ、数人を中心に輪を広げ、現在は10人くらいの若いグループも活動している。その若いグループへは予算はつけるから自由に活動してもらおうようにして、年配の人は口出ししないようにしている。そんな中で、コミュニティで行っている行事をみんなが知っているのだろうかという疑問がでた。そこで、コミュニティでの活動を知ってもらう為に、自治会に入っている人は個別にチラシを配布し、小学校・中学校・保育園・幼稚園に通う子ども達全員に配布した。</p> <p>集合アパートやマンションが1500世帯くらいに増えてきて、そこをどうするかという話もある。地域に住む人が、いかにしてその地域を住みよい街にしていくかという運動を起こさないと無理だ。自治会は、昔から住んでいる人が昔からの流れで行っているし、高齢化しているので、そこでは解決できない。昔は地域を重んじた考え方だったが、今は個人を重んじた考え方変わった。行政でも、個人が市に要望を言うと何でもしてくれるようになった。昔は、団体や地域で役所に言っていけないと駄目だった。</p> <p>ゴミの回収や広報の配布なんかをはじめ、行政サービスは、ほぼ個人単位で対応してくれる。自治会に入ればお金を取られるし、何のメリットがあるかと聞かれたら返答に困ることがある。</p> <p>児童委員が「ワイワイ広場」というのを毎月2回しているが、毎回見る人と、見たことがない人も来る。ということは口コミで広がっているのではないかと考えている。市民会館で子供の遊び方を教えられたり、地域で活動したりできる人を育てられるといいと思う。</p> <p>お互いが頼る人がいない。ママ友が広がっていくと繋がっていくと思う。いくつかのグループが増えていけばいいと思う。市民会館や地域の行事を通じて、悩み事を相談でき、助け合えるつながりができるといい。</p> <p>毎週金曜日に「ふれあいサロン」をしており、朝9時から11時くらいまで無料でコーヒーやお茶菓子を出している。囲碁や将棋をする人もいれば、コーヒーを飲むだけの人もいる。毎回30人くらい来るが、自治会に入っている人、入っていない人も関係なく、誰が来ても良いことにしている。</p> <p>お互い地域で住んでいて良かったという土台作りが必要。自治会の加入率がどうこうという数字だけで判断したり、よし悪しが決まるものでないと思う。市民会館の理念はいい話だと思うが、運営をどうするかはしっかりと考えていかなければいけない。今までの行政は、作ったから勝手に使えというような感じだった。</p> <p>挨拶運動とか声かけ運動とか始めたが、少しずつ認知されてきた。地域のつながり、まとまりをつくることができたらと思う。</p> <p>市民会館の構想はいいと思うから、進めていってほしい。</p>
2	<p>新興住宅が増えており、自治会加入率は減っている。子供がいる世帯で自治会に入っている人が減ってきた。</p> <p>コミュニティの立場としては、大きいものを建てて、演奏会等をやるのはいいが、コミュニティの方へ出張公演会みたいな事をして欲しい。</p> <p>市民会館で演奏会があるからと言ってもなかなか集まらない。市が行っている出張出前公演は素晴らしい。中心市街地にどれくらい行くかという、あまり行かないし、行けない人も多い。</p> <p>考えてみると、我々は男性を中心にしてコミュニティの活動をしているが、お母さん方や女性を中心にしていくといいと思うが、なかなか難しい。奥さん方を動かしたほうがいいのかと思っている。</p> <p>長寿会という高齢者だけが集まって、健康のために何かやろうということもやっており、長寿会は自治会に入っていないだけでも参加できる仕組みにしている。</p>
3	<p>アイレックスがあるので必要ないのではないかと考える。それほど大きなものはいらぬ。各地域に支店を作って事業を展開していくほうが地域に浸透する。作るのであれば、市の中心部でもあるので、観光面でも地下駐車場とか広い駐車場を作ってもらいたい。市の中心部に行く時には、いつも駐車場を探すのに苦労している。</p> <p>アイレックスも努力してやっているので悪く言わないで欲しい。ロールバックは悪いというが、建設当初、アイレックスでN響等を行う予定で建てていない。アイレックスしか建てられないので、そこで何かもやりたいという考え方でやっている。</p> <p>アイレックスは、多用途に使えるので、それなりに使えばいいと思っている。紆余曲折ありながら稼働率も上がっており、駐車場も広く、中讃や西讃地域から来られる人から非常に便利でいいという声も沢山ある。いい特徴を上手く活用していくことを考えていかなければいけない。</p> <p>市民会館は市民センターのように色々な機能を併せ持たせ、そこに集約して、集まりやすいようにすればいいのではと思う。</p> <p>障害のある方が、社会的に孤立していることもあると思うが、現実的に困ったときに誰に頼ればいいのかという不安がある。今の社会状況の中で、働いて社会を担っている方が、何億円というその負担をどのように考えるのかということを知りたい。アイレックスが完成した時は吹奏楽部が強く、音楽が盛んだ。音楽の先生も沢山出されたが、音楽活動をつづける人もたくさん出てきたが、それでは食べていけない。そういう人達はどこかで演奏したり、アウトリーチに行ってもギャラがない等ということもある。ハコも大事だが、そういうことのない仕組みも作っていただきたい。</p>
4	<p>自立し、自発的に地域の課題を解決していこうということで、コミュニティ組織を立ち上げた。自立が深まると孤立するという話もあったが、確かにそのとおりで、ギンギンやりすぎると、市役所とコミュニティとの間がギクシャクしたことも度々あった。行政のいいなりにしていたのでは、なかなか自立するということは難しいと感じていた。</p> <p>自分達の活動で一番弱いところは、芸術活動でないかと感じている。芸術というのは人間の心を暖かくし、柔らかくするので、バランス感覚をとるためには芸術活動を行っていくことが課題だと思っている。</p> <p>コミュニティを立ち上げた当時は、総務、環境、人権、福祉、保健、健全育成の部会を構成した。当時は46人の自治会長を各部会に振り分けて手探りで始めた。連合自治会がやっていた活動をメインにし、公民館活動の寄せ集めという形で行っていた。公民館活動としては、ここで習い事をした事を発表する祭りや、町民体育祭の二つの大きな活動をメインにしてきた。その後、防災をメインとするのか、環境をメインとするのかということも相当議論した。環境は、緑化運動から始めようということになったが、広い場所がお宮さん以外には無いということになり、また、南海トラフや集中豪雨の問題もあるので、防災を中心に街づくりをやることが平成13年に決まった。今では環境部会でも川沿いにつつじを100本、椿を25本くらい植え、山と川をセットにして里山構想として、そこで祭りやイベントをやってもいいということも環境の目玉としてやっている。福祉部会は、130人あまりの要介助者という災害弱者に対して民生委員さんが対応している。秋頃には赤い羽根共同募金を行ってもらっているが、この成績は地域コミュニティの中では群を抜いている。5月の赤十字の活動は女性部会が主体になってやっているが、この成績も17の小中学校区内で3本の指に入っている。保健部会は90歳以上の何人かをモデルにしてしっかり調査し、その家庭環境の中から健康寿命を伸ばすためにはどういうことをやっていくか、どういう食生活がいいのかということも水平展開している。</p> <p>自立して、自発的にコミュニティ運営を行うという当初の理念は生きており、県を代表する地域団体に育っていると思っている。ただ、文化芸術部というのを作りたいとい、色々な文化活動の先生方を集めて文化芸術部を立ち上げてねという話を10年位前にしたが実現できなかった。文化芸術関係の部会ができれば、地域のバランスがとれた活動ができるのではないかと考えている。</p>

その他

	要 点
1	<p>地域の引きこもっているお年寄りを集めて、各コミュニティセンターに一箇所、居場所となるところを作らないか、ということ由市から言われた。県や市関係の集まりに昔から行っていたが、どこへ行っても高齢者しかおらず、若い自治会の会員はどんどん減っていつている。お年寄りの居場所を作り、友達を作って元気になるということをやろうと思った。</p> <p>会員を増やそうと思い、自分の知り合いを集めて始めたが、会費として1ヶ月に500円を支払ってもらっている。その500円分は地域振興券で使えるような仕組みにした。地域振興券として使わなくても、行事をするたびに500円をもらうのだが、そこでも使えるようにした。しかし、最初はなかなか集まらなかった。そこで、地区内の68の自治会の会長に頼んで、会員のところにこのチラシを回覧してもらうことにした。丸亀市社会福祉協議会が行なっている「いきいきサロン」というのがあるが、そこと結びついて、お互いに交流しながら会員も増やそうと考えている。現在180人くらいの会員がいるが、90人くらいのサポートしてくれる会員がいる。お年寄りから困りごとの相談をうけたら、そこへ出向いて色々手伝いをする。500円の会費をもらっていてもサポーターにはわずかなお金しか渡せない。それなりの成果をあげているところには、費用がかかるので行政からの後押しがほしい。行政としてやらなければいけないのは、高齢者の中でも体の不自由な方たちのお世話。あとの元気な人や、閉じこもっている人は我々にまかせてくれないかということで行政には話しているが、なかなか聞いてもらえない。</p> <p>買い物と一緒に行って欲しいとか、話し相手になって欲しいという依頼がたくさんあり、このサポーターをもっと増やさなければと思っている。電球ひとつ交換してほしいというような依頼もくる。</p> <p>また、自治会の加入率が少し前までは50%を超えていたが、外から人が入ってくるようになり、ここ2年間くらいで48%になった。昔ながらの自治会は、加入金が高く、そこで一席持つなどのしきたりがある所が多い。そういう所に若い人は入らないので、新しい団地ができたならそこで自治会を作るよう促している。会って話しをしてみると、案外上手くいくことが多い。新しい団地ができて、そこから子供の声がかかるのが嬉しい。</p> <p>朝晩に犬の散歩をしているが、散歩している人と仲良くなる。犬友会というのを作り、会ったら挨拶をする・犬のフンは持ち帰る・不法投棄を見つけたら持ってかえって資源ごみで出すというルールを作った。ルールを載せたチラシを作って配ってみると、みんな顔見知りなので、フンは持ち帰るようになった。</p>
2	<p>ここは、体験の人が年間500人くらい来るが、3分の1の人は県外から来る方になる。そういう意味では色々な人が集まる場所にはなっていると思う。レンタルスペースも併設しているので、色々な人がカルチャーを行ったり、ホームパーティを行ったりしている。家ではなかなか集まれないので、ここでパーティをしたり、パソコン教室をする等、そういう意味では地元の人が集まって色々なことをしているとは思っている。なぜ香川で焼き物かと思われるが、観光で焼き物を焼きにくる人も結構多い。今は何か残るものを求めてやって来る人が多い。旅行先で何かを作ったとか、何かをしたという証を残したいのではないと思う。</p> <p>海外からもレンタカーを借りてくる人がいる。</p> <p>市が行う政策は、出来てから知ることばかりだが、こうやって最初から関わってもらえるのは嬉しい。</p> <p>食育とはよく言われるが、芸術や工芸の育はない。器や団扇は工場製品や100円ショップなどで買うのが一般的になっており、3Dプリンター等で作れるようになった。ここで体験をした人は、大人でも「器を作るのって大変なんですね。」という感想を言ってもらえる。劇場が、つながりや体験を提供する場となるのであれば素晴らしい。</p> <p>学校教育から変えないと子供の感性等は変わらず、大人になっても変わらない。色彩感覚も3歳までに育つといわれるので、親のファッション等でそういう感性が養われるとも言われているようだ。子供の頃から色々なものに触れさせるか、触れさせていないかで大きく育ちが変わると思う。人は言葉で言うのではなく、体験や体感しないと駄目だと思う。</p> <p>県外の人意見や評価から色々な気付きがある。</p> <p>昔は観音寺から綿を買ってきて、丸亀で糸にして売っていた。観音寺の綿の先生に教えてもらって綿から糸を紡いだことがあるが、コマみたいもので紡いだりできるので、小学生等と一緒にやると面白がってくれる。そういう事ができる場所が中心地にならないのが現状であろうし、そういうものに触れられる機会が欲しい。小さい時の体験が大人になって役に立つことが多いと思う。</p>
3	<p>弊社は、167人の中の60人が就労弱者といわれる人である。弊社の一番の特徴は、誰々用の仕事というのではなく、同じ仕事を同じ立場でみんなでやるということだ。障がい者の人は、この仕事というのではなく、スタートラインが全て同じにしている。通常ベッドメイキングは3人くらいで行うが、室内の作業をする人と、洗面をする人とに別れる。それをすると3人しか雇えないが、色々な人に働いてもらいたいので6人雇う。6人の方が教えやすくなる。特にニートの子は、仕事することに億劫になっているのでいきなり難しい仕事はできない。そのため簡単な仕事から行い自信を持ってもらい、できるという自信が居場所になる。引きこもりの子は精神に病を抱えている場合もあり、休みがちになる事もあるが、休んでもすぐにフォローできる仕組みなので、他社のように「休みすぎだから首だ。」とはしない。出来ると思わせないと続かない。6年7年引きこもっており、やっと仕事してみようと思ったら出来なかったというのは悲しく、もう出れなくなる。その人しかできない仕事は今の社会に向いていない気がする。色々な人がいる社会なので、やってもらう仕事は毎日変えて、そこを实践で分かっているというふうにする。高校生からバイトに来てくれている子が社会人にもなっているが、ここで働くことで多様性を持って社会に出るので、色々な上司のことが気にならないと言って仕事をしてくれている。</p> <p>NPOで就労支援もしているが、養護学校の卒業生の就職先がないということで、弊社が何とかしようとして立ち上げた。</p> <p>最初は清掃業から始めたが、清掃業で募集を行っても本当に人が来ない。障がいのある方で仕事をしなくてもできない、仕事がない人もいるのではないかと、ハローワークに雇ってみたいと相談し、最初は3名ほど雇って関わってみた。すると、みんなやれるじゃないかとなり、支援機関に声をかけ、間口が広がってきた。会社としても、初めからこうだっけ決め付けず、みんなの良さを見つけながら、毎日やり方も変化し、人の見かたも変化する。</p> <p>何年も居ると自分から意見を出してくれるようになって、それを取り入れながらみんなで作っていったのが今の形。社員も元引きこもりの方や、障がいを持つ方で理解ができるのが強み。障がい者は何もできないと決め付けているが、企業だからやらせるでみる。やらせると案外できるもの。ずっとできる人がいると、その人に頼り、新しい人の受け入れもできない。そのため弊社は中間就労だと思っており、どんどん出来るようになってきたら本人のさらなる成長のためにも、他の会社に巣立ってほしいなと思っています。</p> <p>健常者と障がい者が一緒に働く場合、働く内容を分けたほうが管理しやすいが、本当にお互いを理解しあいながら共に働くということになると、それは違うと思っている。それでは形だけのダイバシティになってしまう。世の中は分ける傾向が強く、そういうことをやめようと思いついて、そういう壁を壊して、みんなと一緒に働けるような会社の仕組みに変えたいと思った。</p> <p>文化というのは、ある一定の人達のもので、縁遠い人達からしてみたら、目に見えない壁があり、社会によってカテゴリー分けされ、それは僕達ではできないとなってしまう。そういうのが嫌で、弊社ではみんなが同じ仕事をしようということにし、同じ仕事をするので、障がいのあるなしは関係がなくなってくる。今までカテゴリー分けされてきた人達からしてみると、新鮮で、特別扱いされず、1人の自立した人として扱われるので、ここに自分の居場所があると思ってくれる。</p> <p>文化は、市民の生活に普段から触れているところが本当の文化であるので、守られて、進化するのだらうと思う。文化芸術ももっと市民に近く、密着したものでないといけないし、そうでないと、他人事になってしまう。</p> <p>ハコモもそうだが、行政から与え続けられてきたので自助の精神、自立の精神というのがなくなってしまった。文化は自分達で創っていくもので、そのような力を失っている。結局、本来国民の力を伸ばすのが政治だが、そういう部分が少ないので私たち自身が生きる力を失っており、求めるものがそういうものばかりになっている。</p> <p>要望をひとつだけ言うと、みんなが使える、誰でも使える場所を作してほしい。私が新しく建てられる文化会館だったとしたら、丸々使いきって欲しい。とにかく使って欲しい。上手下手関係なく使って欲しいと思う。そういう場所が欲しい。</p>

4	<p>相談支援課は、貧困の問題を主に取り扱っている。地域福祉課は、地域を面として捉えるというのが主なテーマになっている。丸亀市は17地区に分けており、それぞれが特色を持っている。大手町の中心市街地あたりの気質としては、お城を中心としており、京極のお殿様の言うとおりとといった住民性があり、あまり自発的に動くことがない気質があるように感じる。城北地区は、高齢者が増えており、中でも1人暮らしの高齢者が多い。城北地区・城乾地区は、他から来る人を拒む地域性があり、孤立しがち。仕事上、孤立死の現場に立ち会うこともあるが、かなり起きているような状態。そうした方々がどこかに行ったり、参加する場所があれば、連れ出すことができ、定期的に通うこともできるので、サロン活動をすすめている。しかし、サロン活動も世話人に負担がかかるので、世話人さんがいなくなってしまうと、サロン自体がなくなってしまう。市民会館がそうした居場所機能を果たしてくれるようになればありがたい。高齢者は、役に立ちたいとか、自分が認められたいということを感じているが、実現する場所がないのでそういう機能もあればいいと思う。高齢者が、自分が演者として何かできるような機能が劇場にあれば、承認欲求も満たされると感じる。</p> <p>子供は学校におり、高齢者は地域にいたので、子ども達が地域に出て行ってお遊戯会をしたりという場はあるが、高齢者が学校に行くようなことはない。それぞれが双方向にクロスするような場があればいい。</p> <p>ファミリーサポートセンターで相談を受けているが、丸亀市に転勤で来て、子育てや育児の相談をする人がいない人、近くに家族がいても頼れない人も結構いる。交流会などを開催しており、そこで母親同士が仲良くなって欲しいと思うが、会員制の会の為、会員登録している人だけになってしまっている。民生委員の事務局をしている。民生委員自体が孤立しており、疲れきっているのではないかという話も聞く。</p> <p>相談支援課では生活困窮者の方が相談に来る。経済的困窮や社会的に孤立している方、繋がりが無い方が沢山いる。成年後見事業や日常生活自立支援事業も行っている。NPOや救護施設ともつながりがあり、救護施設は、就労準備支援といって仕事へ行く前に規則正しい生活を身につけてもらおうということで、就労の前の段階で関わってもらっている。</p> <p>介護事業課は、在宅の高齢者を対象にケアマネージャー事業とヘルパー事業がある。デイサービスも行っていたが、閉鎖した。デイサービスは塗り絵をしたり作品を作ったりするレクリエーションの時間がある。ただ、それが時間潰しになっており、自分の役割にはなかなかおらず、そういうものがどこかと繋がっていかれば良いと思う。丸亀には沢山施設があるので、自分が発揮できる場があればいい。ヘルパーが行っている高齢者の方でも、編み物ができたり、技術を持っているので、そこが横でつながると元気な高齢者がいる丸亀市になるのではないかとと思う。小学校で車椅子体験や難聴体験をする福祉教育を行っているが、学校内での成果発表と好評はあるのだが、横のつながりがなく、学校内で発表して終わりにしている。市内で共有できるようになれば、福祉教育の底上げにつながる。</p>
5	<p>児童館の理論と実践という本の中で、本来の児童センターのあるべき姿は、全部で26項目あるとある。その中で、我々がやるべきことは何なのかということを知りたい。事業計画に入れている行事は、年間200くらいあるが、これらを実践することによって子供の居場所をつくっていくということを考えながら運営している。そうしていると、この5年間で1年間に児童館を利用する人が約1万人増えた。</p> <p>中高生くらいになるとルール違反をしたり、中でワワー騒いだりする子供がおり、その子供が来ると小学生が引いてしまう。そのため、最初はかなりきつい事を言いながらその様な状況を変えていった。そうすると、そのような子供も変わっていき、来なくなったりするようになり、居場所として定着していくようになった。居場所づくりというのは、何でもかまわないからどうぞどうぞと言うものではないと思っている。</p> <p>丸亀市の住民以外の人も8～9%くらい来ており、ロコミで市外の人も認知して来るようになった。子供目線で様々なことをやらないと、児童センターは成り立っていかない。</p> <p>子供達はお金を持っていないので、行事で買えるものは電気代等を極端に節約して極力安くしている。</p> <p>幼児、子供、学習、スポーツ、地域、世代間交流、相談業務を行っている。年間4回イベントを行っており、その時には中学校、高校にお願いしてボランティアを募集している。保育所の先生になる方が、毎年ここに2週間研修に来る。</p> <p>相談業務は、子育て広場がある。0～3歳までの子供の発達障害の相談業務を立ちあげ、せっかくやるなら児童センターも一緒にやろうということで行っている。坂出や高松の病院とのネットワークを作り、ここで相談を受けた子供を斡旋している。</p> <p>指定管理を出す時や、施設を運営管理する時は、本来、市が施設の設置目的や運営理念などを指定管理者と共有しておく必要がある。今はそういったところまで丸投げであり、そうすれば変化もない。市民センター、地域のコミュニティセンター、児童センターとどうやって連携すれば地域が発展していくかというキモは、市が決めなければいけず、劇場をつくる場合も同じ。</p>
6	<p>ケアマネが付き、デイケアを受けてもらえる人はいいが、ケアプランを立てにいても家を出たくない人の家族の支援が大変。認知症は色々なパターンがあるが、暴力や暴言が出ている人は大変。</p> <p>認知症になると介護認定を受けてもらう事になるが、その仕組み自体を知らない人がいるかもしれない。そのために、介護認定認知症カフェにランチという仕組みがあり、民間が請け負っている。その中で、認知症かもしれないという人を地域包括につないでもらっている。地域の民生委員が各世帯を回っているの、そこで気づける人は同じように地域包括につながりになっている。民生委員の業務は多くなっているが、なり手は減ってきている。</p> <p>地域や家族のつながりが減ってきている事も事実であり、無縁の人が多くなっている事を肌で感じる。</p> <p>本人の同意が無いと個人情報を出せないの、事業所と民生委員との情報交換がなかなか出来ないのが現状で、うまくつなげていけていない。民生委員さんも八方塞ぎになっている。</p> <p>学校は生活保護世帯の情報は把握しているが、保護にかからない貧困世帯の状況は把握できていない。子供の状況がおかしくても、それが家庭の問題なのかどうかということが見えにくいので、学校と情報を共有できるような仕組みをつくらなければいけないが、個人情報に壁になることもある。</p> <p>精神的な問題を抱えている人は沢山いるが、投薬での治療は難しい。そのことにみんな気づかないから、どうしても薬に頼ってしまう。薬の副作用でまた動けなくなる人もみえてきたが、結局頼るものは薬しかなく、次のステップに踏み込むのが大変。心の病を患った人が職場に復帰する時に、いきなりフルタイムで働かされるので、復帰プログラムがあればいいと思う。段階的に復帰するプログラムの中に文化が入ってくるようなものがあるといい気がする。</p> <p>高松にある「ここからハウス」は、学生が貧困や心の病を抱えている人の居場所となり、認められ、役割をつくることで復帰していく。</p> <p>孤独死も増えている。</p>
7	<p>本来、劇場や文化には、そこに関わった人に生きていく力や、活力を与える力がある。</p> <p>学校でしかかられている子どもが、斜めの関係から拾ってもらえ、褒めてもらえるような場面がきくと出てくると思う。</p> <p>劇場力を必要としているのは、一生懸命自分をなくして学校に通っている子どもたちである。大半のその子どもたちに劇場の力が届くようなことを一緒に考えてもらえたらと思う。</p> <p>鑑賞には大きな力があるので、良いものを子どもたちに鑑賞させてあげるといようなこともして欲しい。</p> <p>普通の演劇の演出家であれば、演劇をしたい人がそこに来ているので、手を引っ張ってでも連れてくれば良いが、ファシリテーションを主にしなければならぬ人は、その人達の背中を押したり、その子たちがモチベーションを上げるやり方をできないといけない。</p> <p>社会的な負のモデルを受け継いでしまった大人の人に、そうじゃなくて良いと言ってあげられるような仕組みが、劇場のようなところでできれば、肩の力を抜いて、その子どもの仕上げ具合で自分が判断されることにきゅうきゅうになっている親をなんとか解放してあげられるようなそういったこともできたら良い。</p> <p>夜の図書館は、「一冊の本との出会いで人生は変わる。」ということで、読書会ではなく、自分が読んで感動したり、良かった本を不定期に持ち寄り、簡単に紹介して、良ければ交換をして、またそれを持って帰ってという形で行っている。本は情報ではなく、物語である。本を読めば人生が変わる。人間体験するか、本を読んで学ぶくらいしか自分の枠を広げられない。体験できる量は限られているが、本は色々な人がいて、人生は色々な人がいていい。まさに考え方は一緒で、そういう枠を広げていたら何があっても打たれ強くなる。100冊の本より1回の飲み会というのが本当は一番。本をたくさん読むより、飲み会でわーわー言うほうが、それでいいという軽い会。</p> <p>一つの本を共有することで、子どもとも喋るし、10歳以上上の子と下の子が離れているが、同じ本を読んだ感想を言う時は皆同じで、コミュニティのようなものができる。</p> <p>劇場が人が集まる場所になればおもしろい。自分たちの発表の場が高品質なところがあると、日本中世界中の人があのホールでという動きにもなる。いかに安くあげるかではなく、いかに素敵なものを作るかという形で作ってもらえれば。</p>
8	<p>ある施設は、出来合いの公演を買い、貸し館をするだけのよくあるハコモノ行政になってしまっている。劇場の人は手を出してはいけないようなものしか行っていない。</p> <p>地元の劇団は、稽古場を自分達で確保し、レストランやカフェ等の20～30人程入れる場所で公演をしている。</p> <p>20～30人で出来る場所は、探せばなんとかあるが、100人規模のものが県内に全く無い。100人規模でできる作品は面白く、多様性があるものが多い。</p> <p>課題だと考えるのは、「発表会」文化である。自分達だけが良くて、楽しめればいいという精神でやっている人が多い。</p> <p>香川県の一般の人が知っている演劇は、宝塚か劇団四季のみで、ここから変えていかないといいけないような気がする。作品を創造することや、面白いワークショップを行う等、興味をもって足を運んでもらうような仕組みが欲しい。</p> <p>昔、丸亀に移住してきた人が知り合いにおり、4年間は頑張っていたが、地元の人に全く相手にしてもらえず、よそ者出て行けと言われてたり、税金の補助金をもらって来たんだと言われてたりして、耐えられなくて帰ってしまった人もいる。そういった異質なものを受け付けない精神が丸亀にはある。そういうものを変えられるのが演劇の力だと思う。変わりたくないを変えていくという意味では、こちらも変わらなければいけない。</p> <p>高松市で子供演劇をやったことがあるが、難しいと感じたのは、子ども達は親御さんが連れてこないといと来れないこと。</p> <p>演劇好きな人は、自分達が公演をした次には違う人達の演劇を見に行く。お互いに観合い、グルグル回っているだけで新しい人は入ってきていない。都会はそれでも成り立ってしまっているから駄目だと思う。できるだけ多くの人に観てもらいたいが、そこから抜け出す方法がわからないから皆が困っている状態。</p>

関係機関

	要 点
1	<p>健康増進計画に基づいて事業を実施している。「つながる」というところはものすごく力をいれていかなくてはいけないと思っている。</p> <p>丸亀市の課題は、健康に関心がある人と無関心の人と二極化している。今までは自分達がやっている取り組みに来てくれる人を対象に色々と事業を行ってきたが、無関心層にどうすればアプローチできるかを考えながら事業を組み立てている。各関係団体の代表や、健康づくりに賛同してくれた方と一緒に地域に出向いていっている。無関心層へ働きかけるというところで、毎月10日は健康の日と設定し、健康10か条を作り、健康づくりをすすめている。丸亀市には17校区あるが、地区担当を置いており、保健師も地区担当を持っている。自治会に入って3年経つが、自治会に入っていない人にも届けられるようになるには、まだまだだと感じている。市民会館ができるときに、一緒にやっていけることはどんなことだろうということは考えていきたい。</p> <p>相談できる場は各コミュニティや支援センターで確保しているが、そこにつながらない人も劇場なら何かできるかもしれない。</p> <p>健康増進計画に先行させて自殺対策計画を作っており、庁内で実際に色々なことに取り組んでいるのでそれをまとめていければと思っている。自殺者数は、自殺だと分かっているのはわずかで、全てを把握することは難しい。自殺対策の関係でも市民会館と何かできると思っている。生きがいを得れたり、ほっとする場所であって欲しい。</p>